

需要の高い複色で作業の省力化が可能な スイートピー新品種「ムジカ式部」

田村 瑞紗

宮崎県総合農業試験場 花き部

1. はじめに

スイートピーは、多彩な花色と柔らかな花弁、そして芳香を持ち、冬から春にかけて花束やアレンジメントに切り花が利用されている。国内におけるスイートピーの切り花営利栽培は、本県をはじめ、岡山県、兵庫県、神奈川県などの冬期晴天日の多い太平洋沿岸および瀬戸内地方で盛んである。

宮崎県は、国内スイートピー生産量の約5割を占める国内1位の生産地で、100品種以上が栽培されている。宮崎県総合農業試験場では、1989年（平成元年）に品種育成を開始し、主に交雑育種法を用いて、これまでに28品種を育成してきた。当初は県独自の新規花色を追求し、宮崎県を代表する複色品種のシリーズである式部三姉妹を育成するとともに、作業性の観点から、巻きひげがなく作業省力性に優れるムジカシリーズ、品質向上の観点から、通常の品種より日持ちが1.5～2倍優れる良日持ち性品種の育成を行ってきた。

本稿では、花色が需要の高い複色であり、巻きひげがなく作業省力性に優れるムジカシリーズの新品種として、2022年に「ムジカ式部」（写真1）を新たに育成したので紹介する。



写真1 「ムジカ式部」

2. 育成経過

「ムジカ式部」は、2013年春に宮崎県総合農業試験場において、花色がピンク系複色の「恋式部」を子房親に、花色がラベンダー色で巻きひげがない「ムジカラベンダー」を花粉親として交配を行った。その後、後代において自殖と選抜を繰り返し、F₈世代で固定した。

2020年～2021年に生産者ほ場で適応性試験を行ったところ、その能力および適性も優れていたため、2023年に登録出願し、2023年7月19日出願公表されている（出願番号36707号）。

3. 品種の特性

「ムジカ式部」は、宮崎県を代表する複色品種のシリーズである式部三姉妹の中の、紫系複色である「式部」の花色を有しており、また、巻きひげがなく作業性に優れるムジカシリーズの特徴を併せ持っている。これまで、ムジカシリーズには複色品種はなかったことから、本品種に対する産地からのニーズは高い。

主な特性を表1に示した。対照となる基準品種とし

表1 「ムジカ式部」と基準品種の主な特性

品 種	ムジカ式部	恋式部	ムジカラベンダー
草 型	高性	高性	高性
節間長	長	長	長
巻きひげの有無	無	有	無
花 形	ウェーブ	ウェーブ	ウェーブ
花 径	中	中	中
花 色	旗弁 (JHS)	鮮紫ピンク (9205)	明青味紫 (8305)
	翼弁 (JHS)	黄白 (2901)	浅青味紫 (8303)
花柄の長さ	中	中	中
一花房あたりの花数	4～5輪	4～5輪	4～5輪
開花習性	春咲き性	春咲き性	春咲き性

表2 「ムジカ式部」と基準品種の1株当たり収量および切り花形質

品種名	株当たり切り花本数(本/株)		切り花形質			
	切り花本数	うち出荷 ¹⁾ 本数	花柄長(cm)	ステム長(cm) ²⁾	着輪数(個) ³⁾	開花輪数(個) ⁴⁾
ムジカ式部	33.8 ± 3.0 ⁵⁾	28.7 ± 3.9	35.1 ± 2.8	26.7 ± 2.0	4.2 ± 0.2	4.1 ± 0.3
恋式部	35.0 ± 3.4	27.3 ± 4.2	35.5 ± 3.7	26.7 ± 2.9	4.6 ± 0.3	4.4 ± 0.3
ムジカラベンダー	28.7 ± 2.6	23.2 ± 4.7	37.1 ± 3.3	26.5 ± 2.3	4.1 ± 0.3	4.1 ± 0.3

注1) 落蕾が無く第1小花までの花柄長が20 cm以上、小花数3以上の花

2) 第1小花までの花柄長 3) 着輪した花蕾数 4) 開花した小花数 5) 平均値±標準偏差

て親品種である「恋式部」および「ムジカラベンダー」を用いた。草型は高性、節間長は長、花形はウェーブ、花径は中である。旗弁の中央部の花色は濃赤紫（日本園芸植物標準色票（JHS カラーチャート、以下 JHS）No.9509）、翼弁の中央部の花色は青味紫（JHS No.8310）で、1花房当たりの花数は4～5輪、開花習性は春咲き性である。

9月上旬に播種する作型で、28日間の種子冷蔵を行った場合、10月中旬に発蕾し、11月下旬から収穫可能となる。切り花本数は1株当たり33本、出荷本数は28本であり、営利栽培向け品種として十分な収量である。

基準品種の「ムジカラベンダー」よりも出荷本数が多く、着輪数も安定していることから、安定した収益性が期待できる（表2）。

4. 作業性

スイートピー栽培に必要な労力は、7月からの定植前のハウス準備から4月の収穫終了と6月の採種までの期間に1,000 m²当たり概算で3,875時間とされている（宮崎県農業経営指針、2020）。内訳は収穫調整が約4割（1,573時間）、つる下ろし作業が約2割（842時間）、巻きひげ取り・腋芽かき・誘引作業が約2割（832時間）であり、このうち巻きひげ取りの割合が全体の約1割となっている。

本県育成のムジカシリーズは、巻きひげが複葉となることから、巻きひげを取る必要がなく、全体の約1割の時間が省力できる（写真2）。

このことから、ムジカシリーズは雇用型経営を行う農家はもとより、家族経営を行う農家でも導入され、2024年に宮崎県内で延べ124 aが作付けされ、そのうち「ムジカ式部」の栽培は9.4 aとなっている。

5. 品種名

本品種を含め、宮崎県総合農業試験場で育成した品



写真2 一般的な品種の葉と巻きひげ（左）、ムジカシリーズの葉と複葉（右）

種は、栽培地域を宮崎県内に限定しており、県のオリジナル品種として国内市場および海外へも出荷されている。

そこで、本県が育成したスイートピーは、県にゆかりのある品種名を付け、宮崎県育成品種としての差別化と本県ブランドとしてのPRを行っている。

「ムジカ式部」は、ラテン語で「音楽」の意味から付けられたムジカシリーズの特性と、すでに本県のオリジナル品種である「式部」の花色を有することから、両方の名前を組み合わせ「ムジカ式部」とした。

6. おわりに

宮崎県総合農業試験場では、花色の市場性、巻きひげのない省力性、良日持ち性、難落蕾性などを複数有する品種育成を目標に、選抜に取り組んでいる。

今後は、これらの形質に耐暑性を加え、気候変動に強く、収益性の高い品種育成を目標に取り組んでいく。

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂5805

（たむら みずさ）